

2020 年度特定共同研究申請書

1.応募領域 (丸を付けてください) 古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 <u>海外史料領域</u> 複合史料領域
2.申請課題名 モンスーン文書・イエズス会日本書翰・VOC 文書・EIC 文書の分野横断的研究
3 新規・継続の別 (丸をつけてください) 新規 継続
4.申請者 特殊史料部門・准教授・松方冬子
5.所内共同研究者 特殊史料部門・准教授・岡美穂子 特殊史料部門・助教・岡本真 近世史料部門・助教・水上たかね
6.希望する研究期間 2019 年度～2021 年度 (3 年間)
7.課題の概要(400 字程度) (この項は広報等に利用・掲載することがあります) 本研究では、エスタード・ダ・インディア、イエズス会、オランダ東インド会社 (VOC)、イギリス東インド会社 (EIC) という、広域的で非 (あるいは半) 国家的な組織の、おもに 17 世紀に本部とアジア拠点間で取り交わされた情報について、内容だけでなく、史料学的な観点からも、多角的な検討を加える。従来、南欧語史料・オランダ語・英語史料はそれぞれ別々の研究者によって担われてきた。しかし、近年、双方を視野に入れた研究が出始めている。こうした状況をふまえ、本研究は、共通のテーマについて専門を異にする研究者が密接な討論を行うことにより、そのような方向性を一層推し進める。 現在グローバル化する世界の中で歴史学のあり方にも変化が求められているが、海外の動向の安直な輸入や評価への対応としてではなく、日本史学の内在的発展とその成果に基づき、今まで蓄積されてきた学知のつなげ方を刷新することによって、国際的な貢献を模索する。同時に、世界的な要請でもある厳密な史料読解に基づく研究を担える次世代の育成も目指す。
8.研究の目的(400 字程度) 東京大学史料編纂所は、多くの欧文史料のマイクロフィルムやデジタル画像のコレクションを有しており、今後ますますの活用が望まれる。しかし、今まで、利用する研究者数が少なく、実際に利用されている史料はごく一部だと考えられる。しかし、近年の研究動向によって新しい問題群に光が当たり、アジア情勢全般の中で日本を捉えるという、これまでにない形での活用も可能になってきた。そこで本研究では、東京大学史料編纂所と深い関係にある日本学士院国際学士院連合関係事業「日本関係未刊行史料調査事業」とも連携しつつ、課題名に掲げた文書のなかでも、あまり利用されてこなかったものにとくに注目し、それを分野横断的に討議する。あわせて初学者にも理解できるように史料読解の方法を明示的に示すことで、研究の活性化を図る。

2019年度は、「日本関係未刊行史料調査事業」によるオランダ、フランスでの調査結果も踏まえつつ、研究会集会を2回開催し分野横断的な研究報告を行なう。また、モンスーン文書翻訳検討会、入門書の企画も進めている。とくに、オランダ東インド会社のアジアにおける外交的・法的地位を示す文書を集めたとされる基幹史料集 *Corpus diplomaticum Neerlandico-Indicum* が主に依拠した文書、通称 Contractboeken (オランダ国立中央文書館所蔵東インド会社文書の一部) の現状調査、デジタル画像の蒐集、さらにそれらを踏まえた研究成果を、外交の世界史のなかに位置づけ、ヨーロッパ中心史観を相対化するべく比較研究を行っており(松方冬子 HMC 公募研究「徳川政権の外交—あるいは『外交』以前—」による招聘事業とも連携)、成果は Association for Asian Studies 年次総会で報告することを計画している(旅費の一部はサントリー文化財団に申請中)。余裕があれば、インドネシア調査も行なう。

2020年度はそれを前提に、史料群ごとにさらに踏み込んだ、かつ国際的な研究も行なう。具体的には、オランダから VOC 文書研究の若手第1人者を招聘し、VOC 文書全体の中での日本の位置づけや最新の研究状況について国際研究集会を開催する。また、史料編纂所があらたな研究協力関係を構築しつつあるイェズス会文書館からの招聘も行なう(国際研究集会を計画)。入門書の編集・モンスーン文書翻訳・Contractboeken 調査も継続して進める。

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)

研究の目的の実現は、さまざまな専門の研究者が一堂に会することで初めて可能になるので共同利用・共同研究として進める意義がある。

本研究では、基礎となる史料の翻刻・翻訳のほか、最終的には海外のジャーナルに投稿できるような英語論文の執筆も支援する。

10. 研究の実施計画

- ・オランダから研究者1名招聘・あわせてオランダ語メンバーのみの研究会開催(新規)
- ・イタリアまたはアメリカ合衆国から研究者1名招聘・あわせて関連研究会開催(新規)
- ・年度後半に研究集会1回開催(継続)
- ・モンスーン文書翻訳検討会開催(継続)
- ・入門書編集(継続)
- ・Contractboeken の調査・検討(継続)。必要部分の翻刻(新規)。

11. 研究成果の公開計画

- 1) 新たに翻刻・翻訳した史料は、東京大学史料編纂所ウェブサイト成果物掲載ページもしくは『東京大学史料編纂所研究紀要』等で公開する。
- 2) 欧文史料読解のための入門書の出版。
- 3) 各自論文執筆。可能なら国際的なジャーナルへの投稿。
- 4) 海外からの研究者招聘に伴い、公開の国際研究集会を開催する。

12. 共同研究員にもとめる役割

- 1) 研究会への参加、研究報告。論文執筆。可能ならば国際的なジャーナルへの投稿。
- 2) 今まで注目されていなかった史料の紹介、翻刻、翻訳。
- 3) 欧文史料読解のための入門書編集への参加、助言。